

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	“牛鬼の里 うわじま”消えない集落づくり事業
対象地域	愛媛県宇和島市
活動概要	<p>当市は、基幹産業の衰退、人口流出、少子高齢化など、日本の地方が抱える諸問題のほとんどが深刻に迫っている地方都市である。</p> <p>このため、地域の景観を形成する風景や伝統、風習についても、人口の減少により、少しずつ消滅に向かっており、各産業の後継者不足も深刻化している。</p> <p>そこで、当地域の中の「限界集落」の一つである「津島町大平地区」をピックアップし、その歴史、文化、習俗と、なぜ限界集落となるに至ったかの原因を調査するとともに、遠くない将来に消滅してしまう危険性の高い地域の歴史を後世に残すための「仕組み」を作る事業を展開する。</p> <p>主要な事業は、「地域調査」「拠点(丸太小屋)づくり」「仕組みづくり」の3つを柱とし、地域内外を問わず、事業にかかわる人材が、そのまま「地域」を保護する組織の担い手となることで、有形無形の両面から、住民のすべてがいなくなったとしても集落の記録と記憶を残すシステムを作ろうとするもの。</p>
今年度の主な取組	<p>① グリーン・ツーリズムと体験型観光を推進研究するうわじま虹色ツーリズム協議会(会長 宇和島市長 石橋 寛久)が主体となり、地域、大学と協力しながら、集落の歴史や文化を調査する。</p> <p>② ①の調査結果を基にし、当該事業実施に必要なスキルを持つ人材を整理して、自治会、企業、大学、マスコミと連携し、「当該事業に必要な人材」を業種、年代別に広く募集する。</p> <p>③ 東京、大阪を中心とした大都市およびインターネットを使ったPR活動を実施し、必要に応じて説明会を開催すると共に、「当該事業に参画する」候補者の応募を受ける。</p> <p>④ 応募者の中から当該事業の実施に必要なと思われる「作業員」を選定する。</p> <p>⑤ 「丸太小屋」製作に関わる「地域住民」「地域外市民」「各種団体」「作業員」により、当該集落の「骨格」を新しい形で継承するための組織(新たな公)の準備会を設立し、丸太小屋製作や組織運営のための仕組みとネットワークを構築していく。</p>
活動結果	<p>①集落の記録:これまで一切まとめられていなかった集落の記録をまとめることができた。これにより、今まで忘れられていた風習や、芸能を共有することができ、それを復活させるという新たな目標につながった。また、既に集落を離れた方にも、映像記録を見もらうことで、不在の間の集落の様子を伝える一助となった。</p> <p>②T型集落点検の実施による血縁者情報の共有:これまで、なんとなく知っていた隣人の子供たちの行方について、T型集落点検を実施することによって、あらためて共有することができた。これにより、世帯レベルの問題もみんな考えながら、解決への糸口を探ることができるようになった。</p> <p>③ゆるやかなネットワークの構築:拠点づくりや集落を支える組織作りについて、様々な場所で話し合いがなされたことにより、支援者の輪が広がった。</p> <p>④集落存続に向けた具体策の協議:これまで、危機感はあるけれども、具体的に何をしていくことが集落存続につながる道なのか、誰もが納得のいく答えは見出せていなかった。しかし、正面からこれをテーマに話し合いを行うことにより、個人が具体的に行動すること、集落で行うこと、支援者が行うことが明確になった。</p>

当初予想していなかった効果

事業にとりかかった段階では、関係者の大半は、集落を存続させるのは難しいと感じていたように思う。しかし、事業を進めていく中で、消滅させない方法について考え、昔の暮らしの記憶を話し合いながら、記録していくことにより、あらためて自分の住む集落の良さを見直すとともに消滅させない努力をすることを具体的に考えるようになった。また、熊本大学の徳野教授らによるT型集落点検の実施と、その話を聞くことで、農山村で生きてきた自分たちの人生や暮らしに対して自信と誇りを持てるようになったことも想定外の成果である。

ブログ等の情報発信により、マスコミからの取材を受け、番組制作までには至らなかったものの、全国のお組みに関する生きた情報を仕入れることが出来、そこから新しいネットワークやヒントを得ることが出来た。

また、自給自足の生活にあこがれる市民の方からお問い合わせをいただいたり、現地を訪ねられる方が少しずつ出来た。当該集落はデジタルデバイスが激しく、インターネット普及率は、ゼロパーセントである。そのような山村集落から発信された新しいツールの情報に対して、少なからず反応があったことや、他地域で生活しているご子息の方から、ふるさとの様子を伺い知ることができることへの感謝の言葉をいただくことができたのは、都市では当たり前のことであるが、嬉しい収穫であり、励みとなった。

情報発信による効果は、一番身近な部分にもあらわれた。当市の若手職員が、ブログを見ることにより、足元の限界集落問題や、農業、食の安全などについて考えるきっかけとなったようで、少しずつ協力を申し出てくれるようにもなった。さらに、作業員の募集にあたっては、関東や近畿に在住する宇和島出身者の会へPRをして出向いたが、都市に出られた方々のふるさとへの思いの深さに直接触れることができ、今回企画についても、資金面などの助力を申し出てくださる方もいた。

実施状況(写真)



【写真】棚田での田植え体験



【写真】ほごろ作り体験(集落の暮らし体験)



【写真】丸太小屋製作人材募集HP



【写真】活動拠点となる空き家の修繕

応募団体名

うわじま虹色ツーリズム協議会

リンク

<http://ohira-marutagoya.blogspot.com/>  
<http://uwajima-r.blogspot.com/>  
<http://www.city.uwajima.ehime.jp/>

部局/担当者名

うわじま虹色ツーリズム協議会事務局 大塚 志織 (宇和島市商工観光課)

連絡先

0895-24-1111  
 shoko@city.uwajima.lg.jp

推薦市町村名

愛媛県宇和島市